

# バリエーションに富んだ観梅用の花ウメ品種

## 1 はじめに

若狭町や嶺南振興局二州農林部では、名勝三方五湖の周辺を日本一の花見の名所とする桃源郷化構想を打ち出しています。観梅用の花ウメとしては、‘冬至（花弁白色、一重）’が植栽され始めていますが、観梅期間を拡大し集客を向上させるため、園芸試験場ではバリエーションに富んだ花ウメ品種の比較調査を行いました。

## 2 花ウメの品種特性

下表の花ウメ7品種の特性を調査しました。開花期や花弁の形状を考慮し、下写真4品種が有望と思われます。



八重寒紅（赤・八重）



玉牡丹（白・八重）



道知辺（薄桃・一重）



紅千鳥（赤・一重）

### 【開 花】

‘紅サシ’と比較して最も早く開花する品種は‘八重寒紅’です（表1）。開花始で2週間、開花盛期で1週間程度早く咲きます。‘紅サシ’同時期に開花する品種としては‘玉牡丹’や‘道知辺’があります。もっとも開花の遅い品種は赤い花弁の‘紅千鳥’で1～2週間‘紅サシ’より遅く咲きます。

花粉は‘紅サシ’ほど多くありませんが‘紅千鳥’以外いずれの品種も有します。また、花数（花芽密度）は‘冬至’に比べると‘大盃’以外の品種は多くありません。

表1 花ウメの品種特性

品種名	花弁		開花始(月/日)		開花盛(月/日)		開花終(月/日)		花粉の有無	花芽密度(個/cm)	
	形	色	H23	H24	H23	H24	H23	H24		H24	H25
八重寒紅	八重	赤	2/10	3/05	3/01	3/21	-	3/26	少	0.48	0.51
大盃	一重	赤	2/24	3/12	3/06	3/25	-	4/02	中	1.01	1.46
月影	一重	白	2/27	3/12	3/18	3/22	-	3/28	少	0.79	0.99
玉牡丹	八重	白	2/27	3/13	3/13	3/27	-	4/06	中	0.88	1.23
冬至	一重	白	2/27	3/12	3/15	3/28	-	4/04	少	1.13	1.37
道知辺	一重	薄桃	3/01	3/13	3/20	3/30	-	4/04	中	0.84	1.18
紅千鳥	一重	赤	3/15	3/26	3/25	4/03	-	4/09	無	0.67	0.78
紅サシ	一重	白	2/26	3/12	3/19	3/28	4/01	4/09	多	1.67	1.88

\*‘紅サシ’…標準樹(圃場が異なる)

\*\*花芽密度…短果枝～中果枝(20cm以下)

**【結実・生育】**

結実性については、いずれも結実しますが、‘八重寒紅’や‘冬至’、‘紅千鳥’では結実しない年もありますし（表2）、‘八重寒紅’と‘玉牡丹’は二又果が多くみられました（写真1）。

また、幹の太りは‘冬至’や‘道知辺’がすこぶる良好で、特に‘道知辺’は樹高や樹幅も大きく非常に樹勢が強い品種です（表3）。

表2 花ウメの結実性

品種	結実性		1果重 (g)	備考
	H23	H24		
八重寒紅	×	△	13.7	二又果多い
大盃	△	△	11.3	
月影	△	△	15.1	樹脂障害果多い
玉牡丹	△	○	11.0	二又、三又果多い
冬至	×	○	13.3	
道知辺	◎	△	12.5	
紅千鳥	○	×	7.8	



写真1 二又果、三又果(左:玉牡丹 右:八重寒紅)

\*結実性…×:結実なし △:1kg未満/樹 ○:1kg以上/樹 ◎:5kg以上/樹

表3 花ウメ5年生樹の生育

2013.1調査

品種	幹周 (cm)	樹高 (cm)	最大幅 (cm)	
			南北	東西
八重寒紅	20.9	303	243	210
大盃	16.2	267	141	141
月影	17.2	282	231	180
玉牡丹	20.6	281	274	218
冬至	25.4	299	264	226
道知辺	23.7	321	272	285
紅千鳥	21.3	283	254	228

‘八重寒紅’は他の品種に比べて中～長果枝の割合が多い特徴がある品種です（図1）。

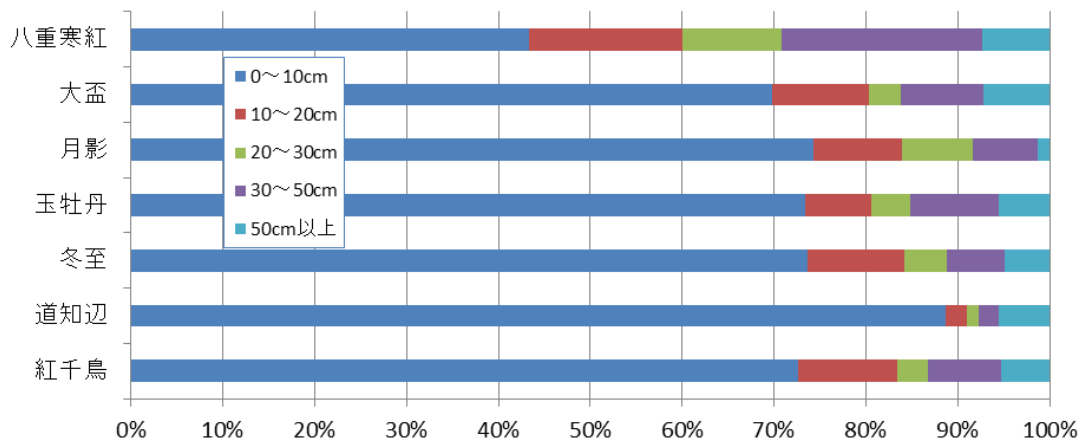


図1 品種別新梢枝長別発生割合

### 3 花ウメの接ぎ木

一般的にウメは苗で購入し栽培しますが、接ぎ木によっても増やすことができます（図2）。既存のウメの発育枝を利用して、花ウメを接ぎます。

3月の切り接ぎを基本とし、接ぐ穂がない場合や切り接ぎがうまくいかなかった場合は8～9月に芽接ぎを行います。

### 4 苗木植え付けと接ぎ木後の管理

実ウメ品種‘紅サシ’に比べて、花ウメはかいよう病に弱いので防風垣の整備など耕種的防除や適期防除に心がけましょう。



図2 接ぎ木の例

[その他]

研究課題名：ウメ生産者の所得を上げる枝物花木生産技術の開発

研究期間：平成21年度～24年度

研究担当者：園芸試験場 ウメ研究G 冬廣吉朗